

NEWS絆

東北生産性本部

「混迷する政治の行方と日本経済への影響」

2026年度 仙台シンポジウム 7月例会開催

仙台シンポジウム7月例会は、政治ジャーナリスト 青山 和弘 氏 を講師にお迎えし、約50名の参加を得て開催いたしました

■例会（2026年7月8日開催）

講師： 政治ジャーナリスト 青山 和弘 氏

（プロフィールなど）

1968年、千葉県生まれ。東京大学文学部社会心理学科を卒業後、1992年に日本テレビ放送網に入社。社会部での警視庁担当を経て、1994年より報道局政治部へ異動。羽田政権から高市政権に至るまで、通算17の政権を最前線で取材する。政治部では野党キャップ、自民党キャップを歴任したほか、永田町取材の要である国会官邸キャップを通算2回・計6年間にわたり務める。

海外取材経験も豊富で、1995年米コロンビア大学東アジア研究所客員研究員となり、2011年からはワシントン支局長としてオバマ政権下のアメリカ政治や大統領選挙を取材。帰国後は報道局解説委員兼政治部副部長として、夕方のニュース番組「news every.」などで鋭く分かりやすい解説を行い、視聴者の高い支持を得る。

2021年9月に独立し、現在はフリーの政治ジャーナリストとしてテレビ・ラジオ・Webメディア等で幅広く活躍。2026年4月から青山学院大学客員教授も務める。

【ご講演要旨】

「混迷する政治の行方と日本経済への影響」

青山氏は、日々永田町の最前線で取材を重ねるジャーナリストならではの視点から、現在の国会情勢や、皇室典範改正・皇族数確保を巡る議論、そして天皇家の思いについて、私見を交えながら生々しくかつ緻密に解説されました。

さらに、高市政権発足当初における維新との連立に向けた動きや、議員定数削減を巡る舞台裏にも言及。大阪都構想の課題や連立の行方に加え、高市総理の政策レクチャーやコミュニケーション手法、その人物像（強み・弱み）にまで踏み込んだ臨場感あふれるお話が展開されました。





また、自身の記者時代を振り返る中で、命日にちなんだ安倍元総理との貴重なエピソードや政治の舞台裏が明かされたほか、消費税問題についても鋭く切り込まれました。「2年間の限定減税に必然性はあるのか」「財源不足の中で目先のバラマキは避けるべき。総理の強い意志のもと、消費税1%を見据えた政策が断行されるのではないか」との見解を示され、多角的な視点から政治の今を読み解く講演となりました。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。